

ユビキタスネットワーク～電子タグ技術等の展開～概要

目標

「世界を魅了するユビキタスネット社会の実現」に向けたユビキタスネットワーク社会基盤(高度ユビキタスオープン統合基盤)の構築

上記目標の実現のために、以下の連携強化を目指す。
 施策の要素技術の共有化・統合化による技術連携
 未利用（医療）分野への展開による利活用拡大
 斬新な利活用分野の発掘によるイノベーション創出

これまでの活動

- 1) 各省の対象施策における要素技術の俯瞰図を作成・共有化した上で、「他の施策でも使いやすい要素技術」(モジュール)を抽出した。さらに、その業界標準・国際標準への提案及び適合を推進し(響プロジェクト等)、進捗状況を定量的に確認できるようにした。
- 2) 対象施策の不必要な重複は無いことを確認した。
- 3) 補完的課題として、以下2課題の公募を実施した。
医療分野における電子タグ利活用のための実証実験
ユビキタスネットワークの斬新な利活用研究・実証

主な成果

- 1) 要素技術の俯瞰図を共有化した結果、「他の施策でも使いやすい要素技術」が見えるようになり、ユビキタスネット社会実現に向けた、新しい事業展開の基礎となる「イノベーションのシーズ(種)」が確立された。また、今後の施策において、「他の施策でも使いやすい要素技術」を積極的に増やそうという、さらなるプラス効果も生まれている。
- 2) 補完的課題(2課題)の実施により、医療分野における課題を認識し、新たな利活用を発掘した。
電子タグとGPS(全地球測位システム)等との連携利用による災害時対応や子供の見守り等への応用

今後の課題

- 1) 「他の施策でも使いやすい要素技術」を増やす
取組を進めるとともに、その要素技術の、標準化への提案・適合、社会に役立つ実用化を推進する。
- 2) ユビキタスネットワークを、電子タグを基本とし、ユビキタスネット社会のサービス基盤技術へ広げるための方向性を検討する。

ユビキタスネットワーク 具体的成果事例

